

様式第3号（第4条関係）

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和5年度 第1回丹波篠山市史編さん通史編専門委員会

2 開催日時

令和5年7月30日（日曜日）午後1時40分から午後3時45分まで

\*傍聴の受付時間（午後1時15分から午後1時35分まで）

3 開催場所

丹波篠山市立四季の森生涯学習センター 第3会議室

4 会議に出席した者の氏名（敬称略）

(1) 委 員 奥村 弘、池田 正男、古市 晃、市澤 哲、加藤 善朗

(欠 席) 藪田 貫、清野 未恵子

(2) 執行機関 小畠 理三、植木 友

(3) その 他 松本 充弘

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

(1) 事務局体制について 公開

(2) 令和5年度事務局調査実施状況等について 公開

(3) 令和5年度専門部会の進捗状況等について 公開

(4) 専門部会間の調整・協議事項について 公開

(5) 執筆要領（案）について 公開

(6) 令和6年度専門部会計画案の検討について 公開

7 非公開の理由

—

## 8 審議の概要

### (1) 開会

### (2) あいさつ

奥村委員長あいさつ

先日、編さん委員長に来学いただき、熱い思いを伺った。市史編さんをしっかり進めていきたい。進めていく中で色々と課題が出ているようで、編のあり方も考えていかなければならない。事務局と相談しながら考えていきたい。一つ一つしっかりと前に進めていきたいと思うので、よろしく願いする。

### (3) 報告事項

#### ア 事務局体制について

- ・事務局から令和5年度事務局体制について報告。

#### イ 令和5年度事務局調査実施状況等について

- ・事務局から令和5年度事務局実施状況等を報告。

(委員) 資料2の18頁、146長福寺考古資料館の資料について、どのようなものがあるかわかるか。

(事務局) 福原会下山人の資料が残されているという情報があり、一覧に記している。現時点では詳細は不明である。

(委員) 現物は見ているか。

(事務局) まだ確認していない。

(委員) 篠山の戦前の考古を知る上で重要な人物。神戸の会下山の麓に居を構え、会下山人と号した人物。没後、子孫が遺品を持って長福寺に資料館を作ったように聞いていたので、どのようなものがあるのか分かればと思ひ伺った。

(委員長) その他に何か意見等ないか。オブザーバーから何か補足があればお願いする。

(オブザーバー) 豊富な史料が集まってきているように思う。54番の上立町自治会文書は金庫に保管されていた史料も提供していただき、屋敷割りの変遷も前回借用分と一連の物として検討できるようになったと思う。

(委員長) 一覧にある数量1,432点は前回借用分と金庫にあった物を合算した数字か。

(オブザーバー) そうである。金庫にあった物は数十点である。その他に注目すべき史料としては、137番のA家文書である。青山家が大阪城代を務め

たことから家中のA家が破損役を務め、その引継ぎ史料などが残されていた。大変貴重な発見だと考える。あとは163番のB家文書については、地域資料整理サポーターの研修時に整理を行ったが、地方史料の良い物が残されていた。ただし湿気などで固着した物も多く、これらの扱いもどうするか考えていきたいと思う。また67番の青山歴史村所蔵史料について、今年度近世部会で藩政日記を集中的に整理する計画である。半分くらいは埃払いのようなことになるかもしれないが、状態の確認も含めて悉皆的にできる貴重な機会だと思う。

(事務局) 市史編さん便りを発行して以降、市民からの注目度も上がってきているように思う。市史編さん事業が日の目を見てきたかなと感じている。図書館でも入口の所に古文書を展示し、来館者に見ていただいている。今後は部会の活動なども市民にPRしていきたいと思う。

ウ 令和5年度専門部会の進捗状況等について

- ・各部会長から部会の進捗状況等を報告。

【考古編専門部会】池田部会長から報告

- ・歴史資料編に掲載する遺跡等の選定作業を進めている。
- ・選定基準として、①通史に用いる遺跡、②学術的な論文等の掲載されている遺跡、③重要遺構が検出・遺物が出土している遺跡、④昭和30年以降に発掘調査された遺跡、として整理し、部会で協議を進め、絞り込みを行った。
- ・今年度中に絞り込みを終えたいと考えている。
- ・中世城館については、別途専門家に依頼して選定を進める予定。
- ・篠山城跡関係については、当時の担当者に依頼して選定を進める予定。

(委員) 県教委が保管している遺物のうち、重要・特筆すべき遺物などが保管されているということがあるか。

(部会長) 重要な物が保管されている。ただし、古い時期に調査された遺物は、なかなか詳しい調査ができないまま保管されていることがある。

(委員) 改めて調査をしていく必要があるということか。

(部会長) そうである。

(委員) 遺物は土器や瓦などか。

(部会長) そうであるが、木製品などもある。そうしたものは単に水につけておけばよいというものではなく、保存処理が必要なものだが、そうした処理がされているかは不明である。

(委員) 木簡もあるのか。

- (部会長) 篠山関係では県で保管している物にはない。
- (委員) 子どもの頃には場整備が始まり、須恵器などが道に落ちていた記憶がある。その頃は調査が手薄な時期だったということが部会長の説明でよく分かった。ほ場整備に伴う発掘調査は平成10年頃までであったのか。
- (部会長) 今田町では続けられていた。
- (委員) 後ほど説明したいが、考古資料については、古代と共に発刊する資料編の中で取り上げるということになるので、文化財編での掲載は重複になるため見送るということを考えている。
- (委員長) 考古の資料編をどのような形にするかによって変わってくると思う。資料編を作るときにどのようにまとめていくのかということは色々な考え方ができるように思う。そのあたりも部会で検討していただければと思う。あるジャンルのみを取り上げるというやり方もあるだろうし、一つ一つの遺跡で取り上げるというやり方もあると思う。
- (事務局) 考古部会では、資料編は古代と合冊で全体頁数を800頁、その内考古が300～400頁ぐらい、そして掲載する遺跡数を100～120ぐらいで検討されている。
- (委員長) 中世城館や近世の遺跡など、どこまで取り上げるのかという課題があると思う。
- (委員) 中世城館は、60ぐらいあるということで、以前参考資料としてマップをいただいている。そのマップを見ても相当な数があると中世編専門部会でも認識している。一覧表はあると思うが、報告書が全て出ているということではないということではよいか。
- (部会長) 報告書はほとんどない。城郭の研究者が調査をされているが、資料編でどのように扱うか検討中である。
- (委員) 中世の資料編では遺跡を収めることはできないが、通史編を書くときには考古資料を踏まえて書く必要があると考えている。協力できる場所があれば考古と一緒に取り組みたいと思うのでよろしく願います。
- (部会長) 中世の通史の所で取り上げる城郭があれば、それは考古の資料編でも取り上げるべきかと思う。通史に取り上げる物は資料編に載せることがのぞましいと思う。
- (委員) ピックアップされる際に一度協議が必要かもしれない。
- (委員長) 課題として押さえておく必要がある。どのような資料編にするのかというコンセプトによっても変わってくると思う。近世や近現代が全ての資料を資料編に載せられないように、考古も全ての遺跡を取り上げるのは不可能だと思う。時代や内容によって載せ方が変わってくると思う。コンセプトについては当委員会でも協議できればと思う。互いを補完し

合うような事ができればと思う。

また今回作成いただいた資料のようなものも市史に必要だと思う。篠山における考古学的な調査研究のこれまでの経過などをまとめることもよいと思う。遺物だけではなく、どう調べるのかなどわからないと残らないので、こうしたものを資料編に載せることも必要のように思う。

#### 【古代編専門部会】古市部会長から報告

- ・5/18に近世・中世部会合同で県立篠山鳳鳴高校と青山歴史村の史料調査を行い、古代に関係する史料を実見した。
- ・5/27～28に第1回部会を開催し、古代の資料編をどうするのか協議を行った。また史料の収集方針として、旧多紀郡のみではなく丹後も含めた旧丹波国を対象に進めることとし、現在神戸大学の院生により資料採録作業を進めている。また28日は市内西南部を巡検したが、今後は旧丹波国も対象に巡検を進めるとした。
- ・大山荘については、古代・中世で分けることなく1つにまとめるという方針とした。

(質疑なし)

#### 【中世編専門部会】市澤部会長から報告

- ・5/18に近世・古代部会合同で県立篠山鳳鳴高校と青山歴史村の史料調査を行い、鳳鳴では主に中世の軍記物などの史料を実見し、青山歴史村では御成敗式目の他、紙は近世だが書体は中世という由来が不明の史料を確認し、6/11に調査と写真撮影を実施した。
- ・6/10～11に第1回部会を開催し、大山荘のみで史料数が1,000点を超し、それだけで1冊が必要になる。またその他の史料で約800点確認されていることから、資料編をどのようにまとめるか協議を行った。令和7年度の委員会で巻構成の検証を行う機会に協議を行いたいと考えている。
- ・中世と近世の境について、中世部会としては明智と秀吉で分けるのが良いのではないかということで近世部会の意見を伺いたいと考えている。
- ・今後、近世部会と合同で波々伯部神社の史料調査を実施したいと考えている。

(質疑なし)

#### 【近世編専門部会】事務局から報告

- ・5/18に部会長と編さん委員長とで協議を行った。同日、古代・中世部会合同で県立篠山鳳鳴高校と青山歴史村の史料調査を行った。

- ・8/8～9 に第1回部会と古文書調査合宿を開催予定。
- (委員長) オブザーバーから補足があればお願いします。
- (オブザーバー) 各部会委員で担当を決められ、それぞれの分野で調査や関係団体の会議などへ出席などをされている。また5月18日の部会長と編さん委員長との協議において、部会長から通史編と資料編の刊行順を入れ替えるという考えが示され、今後検討を進められる予定。
- (委員長) 兵庫県内での自治体史編さんの進め方としては、まず資料編を作ってから本編を作るというのが一般的である。全ての地域がそのようにしているわけではなく、大阪は本編しかないとか、本編を作って、補遺として資料編を作るということもある。順番をひっくり返すと色々なことが起こりそうな気もするので、要協議事項だと思う。資料編の作り方とも関わってくることである。ただ先に通史編という考え方も理解できるものの、部会長からまだ詳細を伺えていないので、後日、そうした機会を作りたいと思う。

**【近現代編専門部会】 奥村部会長から報告**

- ・近日中に市内全域の巡検を行い、イメージを掴んで具体的に進めていきたいと考えている。
  - ・近現代は史料数がかなりの数になる。近世も同様だが、資料編に全ての史料を入れることはできないことを前提に検討を進めたい。史料の収め方と資料編に載せられない史料をどのように公開していくのか、そうしたことを近世部会と共に検討したいと考えている。
  - ・今年度は全体を見ながら、上記のことを調整したい。
- (質疑なし)

**【文化財編専門部会】 加藤部会長から報告**

- ・4/14 に第1回部会、6/23 に第2回部会、7/28 に第3回部会を開催し、大凡の章立て、執筆者を決定した。
- (質疑なし)

**【自然環境編専門部会】 事務局から資料により報告**

- ・今年度は部会を開催していないが、委員及び協力員が精力的に調査を進めており、今年度中に原稿提出の予定。
  - ・編集作業は半年ほど遅れる見込みのため、刊行予定を半年から1年ほど遅らせたい。
- (委員長) 元々文化財編と1冊で一緒に出す計画であり、どちらかのみ先に出

すということはない。両部会が同じスケジュールで進めるという事だ  
と思う。市の方は問題ないか。

(事務局) 問題ない。自然環境編は早め早めに動いていただいていたが、元々  
の文化財編と同じスケジュールになったということだと考えている。

### 【その他】

(委員) 前回委員会で考古編専門部会長から三岳信仰について質問があったが、  
明確な文献史料が残っていれば、中世編専門部会でも取り組めるもの  
の、今のところ発見できていない。当然中世の信仰についても取り上  
げなければならないが、史料などの足がかりがない場合は、民俗の先  
生に修験や宗教系のことを扱ってもらえないかというのが部会の意見  
である。

(委員) 遺品があるということか。

(委員) 遺品というよりはそういう信仰があったということについて、民俗の  
先生にお願いできないかと思う。

(事務局) 今でも西紀では1月に俱利伽羅不動尊で護摩焚きや火渡りなど修験  
の行事などが残っている。丹波大峰会により執り行われている。

(委員) 住んでいる地域でも最近まで大山講、信仰があった。そういった体験・  
記憶を持っている方はおられるので、そういったことを追うことはで  
きえると思う。かつて奥田楽々斎が多紀郷土史考で山岳信仰を1~3とし  
て取り上げるぐらい、深い物が残っているようには思う。民俗の委員  
に相談してみたいと思う。

(委員) 三岳には山岳寺院跡がよく残っている。文献史料は残っていないかも  
しれないが、発掘調査をすればよく分かると思う。

(委員) 故中野卓郎氏が石造物などをかつて調べていた資料があると思う。

(委員) そうした資料も継承していく必要がある。

(委員) 石龕寺や福德貴寺も元々は修験の寺である。善導寺も元々興聖寺とい  
う熊野信仰の寺院である。根っこの所は神仏習合で繋がっていると  
思う。

(委員) 熊野の関係も檀那文献ぐらいしか見つかっておらず、そこから広げる  
のが中世部会では難しい。考古や民俗の方が足がかりになるような  
ものがあるように思う。

(委員) 取り組んでみたい分野ではあるが、ほとんど発掘調査がされていない。  
畑山の麓にある平石山経塚は大正時代に発掘調査もされているがそれ  
ぐらいだと思う。資料に基づいて市史に載せるまで取り組むには時間  
がかかるかもしれない。宿題だと思う。

(委員長) 中々名案は出ないと思うので、今後関係する委員が集まって検討してはどうか。例えば地域編のトピックとかで扱うようなこともできると思う。

(事務局) 地域編の西紀地域で取り扱うとか、そういうことは考えられる。

(委員) 畑地域の方々が熱心に取り組まれていると思う。

(委員) ルートができれば、歩いてまわることもできると思う。

(委員) 奥畑から登山道があり、旧道には石造物も残されている。旧道は廃れている。

(委員長) 色々とアイデアは出てきたので、今回の会議録に記録として残し、今後考えていきたい。

#### (4) 協議事項

##### ア 専門部会間の調整・協議事項について

(委員長) 先ほどの報告事項の所でも様々な調整・協議事項はあがったと思うが、それ以外に何かあれば願います。

(委員) 市史編さんで地域に入ることも多いので、市史編さんによる調査を行っている事が分かるように、首からぶら下げる名札などを用意してもらえると助かる。

(事務局) 検討の上、何らか用意したい。

(委員) 篠山藩の飛地であった美山町は資料を集めるなどされているか。

(オブザーバー) 知井村史を編さんされており、市史編さん室も所蔵している。そうしたものに載っている史料を見ると藩政史で重要な物があるように思う。個人的には多紀郡外の篠山藩領に関心があり、いずれ調査しなければならないように思っている。遠江国には陣屋もあったようである。最近の話題ということで2点上げたい。地域資料整理サポーターの活動で日露戦争の従軍日誌の翻刻を精力的に進めていただいているが、その成果を近現代部会か地域編で活用いただけないかと思っている。もう一つは最近収集している史料の中に、大字レベルで地元の歴史をまとめているものが集まってきているように思う。自治体史編さんの中で地域編編さんをとっかかりにして、今後の大字史レベルの編さんにつなげるという話しをよく聞くが、すでに行われているところの大字レベルでの調査研究活動の取り扱いをどうするかということが最近気になっている。

(委員長) そうした調査研究成果を活かすということもできるだろうし、それを再度確認するとか、広げていくとか、色々できると思う。

(オブザーバー) 福原会下山人や奥田楽々齋、小林敬造、多紀文化顕彰会などに繋がってくると思う。



(委員長) 篠山の文化活動といったものは、当然近現代編で取り上げなければならない。通史編に出てくることになる。

(委員) 文化顕彰会が月 1 回例会を開催し、午前が寺社仏閣などを見学し、午後から参加者が日頃研究していることを発表したり意見交換したりという活動が昭和 20 年代から行われていた。その後、故朽木史郎氏が篠山文華学会を主催し、400 冊ぐらゐの冊子を発行している。文化顕彰会が歩いたところを、さらに細かく踏査して文章にまとめている。そういう伝統が篠山にある。盆地が故に歴史がまとまって掴みやすいというのがあるように思う。特異なところではないかと感じている。

また日露戦争の遺物については、旅順港の閉塞石などを調べている。今でも神社に砲弾などが残っていることもある。また朽木氏の資料は何とかまとめていければと考えている。

(委員長) 日露戦争の資料については、多く残っていると思うので、先ほどの資料は地域編で取り扱っても良いのではないかと個人的には思っている。そのあたりは要相談で進めたい。

(オブザーバー) 近世には地誌の編さんも繰り返されており、篠山の土地柄、地域性も考えられるのかもしれない。

(委員長) その他の課題も解決できていないが、今後の検討課題としたい。中世の巻数を増やす話しも、先日編さん委員長が来学された際に中世編専門部会長とも話しを行っている。

(委員) じっくり考えたいと思う。

(委員長) 巻数については、中世だけではなく、他の部会でも考えられることである。近世でも藩政史料を載せるためにもう 1 冊必要とかいう話しにも繋がる。21 世紀にふさわしいような資料編の作り方をあわせて考えていかないと上手くいかないと思う。近世と近現代はどうするか、中世はどうするかと対応を切り分ける必要があるとは思いますが、今後どこかで対応を確定させていかなければならない。本日、確定させることはできないが、課題を共有し、今後解決を図っていくということでお願いしたい。

## イ 執筆要領（案）について

・事務局より執筆要領（案）について説明。

(委員長) これは実際取り組んでみないと分からない面もある。現状の案で大きな問題などがあれば願います。

(委員) 数詞と年代のところで、書いている内に混乱するような気がする。6 数詞の方は、一九巻、五〇周年、二六歳という書き方になっているが、7 年代・世紀・日時では、大正十二年で「十」を使うとなっている。それ

ぞれ原則があつてそうなのかもしれないが、実際書いていると混乱するように思う。

(委員長) 6 数詞と 7 年代のところは、各先生によって色々と考えがあるように思う。戦後の年代表記をどのように書きたいかなどは執筆者の考えがあるかもしれない。このあたりは今後詰めていくということにさせてほしい。

(委員) 11 符号・記号だが、言語の二語連形で、外国人の名称をダグラス＝マッカーサーのように「＝」で結ぶのは古い表現だと思う。この表現は現在行わないように思う。今は「・」を用いると思う。

また 14 参考文献だが、丹波篠山市史を引用する場合はどうするかについてはっきりとさせておきたい。同所の②の〔例〕の 2 つめの括弧内、(『史料編』⑧四一二～四一四頁)が市史を引用した場合をイメージしたものか。通史編を執筆する際に、資料編から引用する場合にどのように表記したらよいかということで、簡単なルールがあれば良いと思う。

(委員長) これもどこまで引用するかである。執筆者により色々な考え方があり、難しいところである。読み物として、色々な註があるとどうなのかという人もいるし、できるだけ入れたいという人もいるし、どちらが良いか中々難しいところである。

(委員) 案にあるように頁数まで入れるかどうかである。中世では何回も使うような史料が出てきた場合は、資料編の何番の史料であると表現することがある。例えば、「以下の記述は全て資料編の何番の史料に基づく」というような記述が必要な場合があると思う。一点一点に註を付けるのは煩雑さがあるように思う。

(委員長) 近世編が先に通史編を作るとしたら、そのような表現はできなくなる。

(オブザーバー) 読み手の立場になって通史編を読む場合に、この根拠は資料編のどこということが分かった方が望ましいと思う。

(委員長) 近世編ではそのようなことができなくなる。

(委員) 資料編に通史編の何頁という註がつくような感じになるかもしれない。他の編との統一感が難しいように思う。

(委員長) そういう面でも通史編と資料編の刊行順を入れ替えることは色々課題が出てくる。

本日意見をいただいた数詞、年代、符号・記号、参考文献については、他の自治体史の例なども確認しながら、もう少し整理したいと思う。資料編と通史編の関係性は重要になってくる。しっかりと通史編と資料編がそれぞれ参照できるようにすることは大事だし、読み物としての資料編の形も大事だと思う。なかなか難しい問題があるので、もう少し検

討するということにしたい。

ウ 令和6年度専門部会計画案の検討について

- ・事務局より令和6年度専門部会の会議・調査計画等の案の作成について説明し、10月6日までの提出について依頼。

(質疑なし。各部会で6年度の計画案を検討いただき、10月6日までに計画案を事務局に提出することを決定)

(5) 次回開催時期について

- ・11月5日(日)もしくは26日(日)を候補日と、後日連絡する。
- ・編さん委員会と合同開催で調整する。

(6) 閉会

小畠館長あいさつ